



昨日、75歳の誕生日を迎えて、後期高齢者となったお祝いに夫は3か月ぶりに海へ勇んで出かけました。晴天でしたけれども、外海に面している浜諸磯の「高跳び」は風が強いとのこと、小網代湾の「道寸下」の岩場に入りました。波のない、静かな海で、釣り人もほとんどいない昼時です。誕生日を釣り三昧で過ごそうというのです。

海の色のお美しさはたとえようありませんでした。手前の水は岩が良く見えるほど澄んで透明感があり、文字通り水色でした。江の島方面が霞んで見えましたが、淡い群青色、コバルトブルー、空色をはるかに伸びていました。マリパークの高台の下は、小ぶりの海水浴場になっています。夏でもこの海水浴場は空いていて、プライベートビーチのような感じで泳いだことがありました。ここはエメラルドグリーンのグラデーションです。木々を映し、深緑色に輝いていました。

エサを買った釣り具屋のお隣はペットショップです。熱帯魚や小鳥を扱っていました。私は高校生の頃から、ローラー・カナリヤを5,6年飼っていて、エサ、掃除など毎日の世話が大変だったことを覚えていますので、つい覗き込んでしまいました。店主と店の前で、少しおしゃべりをしました。88歳で現役とのこと。生き物の世話、配達など、毎日休むことなく働いているので、75歳なんか、まだ小僧だということでした。そして、「お宅の旦那さん、気が短いだろ？」とのこと。釣りが好きな人は、そろって、気が短い。自分の息子もそうなんだとのことでした。

磯に入ると夫はおにぎりなど持って行っても、食べることも忘れていきます。竿の用意をし、針にエサをつけては、遠投し、エサが無くなるまで、魚にエサを投げ込んでいるのです。気の短い魚が慌ててエサに食いついてくれたら、儲けもの！

ところがこの日、魚たちは用心深く、エサに見向きもしなかったようです。これは地震と関係しているようです。東日本大震災の起こった日の午前中も、たまたま釣りに行っていました。その日も全く魚は出てきませんでした。熊本地震がいまだに続いているために、魚のような下等な生き物の方が、感受性が鋭く、本能的に身の安全を図ってむやみに動かないようです。

年齢ということもあつたのでしょう。夫は早々に釣りを諦めました。私は海を眺められるし、待っている間に読みかけの本を読み終えたので、釣りに出かけるのも苦になりません。獲物がないの



は、やはり疲れを感じさせるようです。いつまで釣りができるだろうとよく言います。遠投せず、足場を選べば、いつまでもできるでしょうと言いながら帰途につきました。釣った魚ではなく、買った魚で早めに夕食をしていると、お嫁ちゃんがベランダで咲かせている花で作ったブーケとケーキを持ってお祝いに来てくれました。素敵なお誕生日でしたね。